

## 「より良い沖縄のために」

学校法人カトリック沖縄学園 沖縄カトリック中学校 3年生

ほかま ひかり  
外間 光

私の曾祖母は時々、戦争の時のことを語ってくれます。

「戦争の時は必死で、大きい鍋の中に身を隠していたんだよ。」このような話を聞く度に、「こわい」という思いと、今の生活からは想像もつかないような当時の状況に胸が一杯になります。

唯一、地上戦が行われた地として、平和祈念資料館やひめゆり資料館などの沖縄戦に関する資料を展示する施設も多く、「観光」の一つとしてそのような場所を訪れる人も多くいます。私達の学校でも、平和学習の一環としてひめゆり資料館を訪れ、多くのことを学びました。それが、悲惨な出来事を経験した沖縄だからこそ伝えられる、「平和のメッセージ」なのではないでしょうか。

しかし、昔の沖縄のことを知っていても、沖縄の現状を知らなければ、過去の経験を生かし、未来につなげることができないと私は思います。例として挙げられるのは、「基地問題」です。沖縄だと新聞にも取り上げられ、毎回の選挙の争点にもなるくらいのこと、身近に感じている人も多いと思います。ですが、まだまだ国内での認知度は低いと私は感じます。実際に、全国のニュースで取り上げられることは以前より多くなったものの、まだ少ないままです。

このことから私は、「観光」の一つとして、沖縄の現状を知るために、沖縄の人々の暮らしを体験するといったことを観光に含めるとよいのではないかと考えます。「百聞は一見にしかず」という言葉がある通り、どんなに資料を読むよりも、一回でも沖縄の人々の暮らしを体験すれば、心にも残り、今の沖縄について考えるよいきっかけになるのではないかと思います。例えば、実際に基地を見たり、旅行のうち数日だけでも、沖縄の人々と同じように生活したり、辺野古の海を見たりしてはどうでしょう。今まではあまり考えることがなかったとしても、一つでも何か心に残ることはあると思います。そして、その心に残ったことを言葉にして伝えることで、沖縄は変わっていくと思います。さらに、今年は戦後七十周年という節目の年です。そういったことをテレビや新聞、インターネットなどを通してアピールし、イベントなどを行えば、修学旅行で沖縄に来た生徒達など若い世代の方々が集まってくれると思います。そして、「とても勉強になった。」「次は家族旅行で訪れたい！」と感じてもらうことで、リピーターも見込めると私は考えます。

私も、初めはあまり基地などの沖縄が抱えている問題に関心はありませんでした。しかし、今自分が置かれている環境が関係してか、沖縄の基地について考えるようになりました。私の学校は国際色が豊かで、外国人の親をもつ人も多くいます。その人達は、基地の中で買い物をしたり、両親も基地の中で働いていたりします。そして、その人達から、基地の中の話を聞くこともあります。それに、学校も普天間基地のある宜野湾市にあり、私も基地を身近に感じている人の一人だと思います。しかし、私がこのような環境にいなかったら、基地を身近に感じることもなく、基地について深く考えることはなかったと思います。このことから、数日間でも実際に、沖縄の人々の暮らしを体験し、沖縄が抱える問題に対しても身近に感じてもらうことができると私は考えます。楽しい沖縄旅行に+αでこのようなことを行うことで、基地問題などの認知度も上がっていくと思います。

それに、今の沖縄が抱えている問題は、私が述べた基地のことだけではなく、サンゴの白化現象などの環境に関することまで色々あり、そのような問題は、日本全体や地球規模で考えないと変わらないものばかりです。そういったことに対して、沖縄県民以外の人々も自分のことのように考えることが重要だと思います。そして、考えたことをもとに、「どうすれば改善するのか」といった対策を練ることで、沖縄はさらにより良くなっていくと思います。そうすれば、「戦争」の悲惨さを伝えつつ、そういった歴史を踏まえての「未来の沖縄」を創り上げていくことが可能になるのではないのでしょうか。

沖縄が、「平和の道」をこれからも歩いていくことを願うと同時に、そういった未来を私達の手で創り上げていきたいと思います。